

研究機関：広島大学

| | |
|--------|--|
| 研究課題名 | 脳静脈、脳解剖の特徴を解明するための手術ビデオを用いた疫学研究 |
| 研究責任者名 | 大学院医歯薬保健学研究科脳神経外科学 教授 栗栖 薫 |
| 研究期間 | 年 月(倫理委員会承認後)～2020年 12月 |
| 対象者 | <p>2006年7月7日から2019年8月1日の間に経シルビウス裂接近法にて種子島医療センター、東広島医療センター並びに山田記念病院脳神経外科にて手術を行った患者さんの手術ビデオを対象とします。</p> |
| 意義・目的 | <p>脳神経外科では汎用されている経シルビウス裂接近法において、深部の病変部まで到達するためにはシルビウス裂を広く開放する必要があります。それを阻む因子としてはシルビウス裂を覆う形で存在する脳表の静脈とシルビウス裂間の癒着が挙げられます。この静脈を損傷すると術後に想定外の合併症をきたすことがありますし、癒着が強いと剥離に難渋して広い術野が得られない場合があります。このため、脳表を覆う静脈やシルビウス裂を形成する前頭葉眼窩回並びに側頭葉極平面の解剖学的特徴を理解することは手術を安全に遂行するために非常に重要です。しかし、これら静脈や眼窩回並びに側頭葉極平面の形態は非常にバリエーションに富んでいるため、実際の手術に際して、静脈をどのように剥離するか癒着の強いシルビウス裂をどう剥離するかについては術者の経験に委ねられます。</p> <p>最近の画像診断技術の進歩に伴い脳や静脈の形態もCTやMRIを用いてある程度描出できるようになっていますが、脳神経外科の顕微鏡下手術では、さらに詳細な静脈の形態や、眼窩回並びに側頭葉極平面のより立体的な相互の位置関係や癒着の程度といった情報が必要です。しかし、これらの描出には現在の術前画像診断では限界があります。このため、直接的な観察による詳細なデータを元にした形態学的特徴の研究が必要です。</p> <p>本研究では、過去の自験例の手術ビデオを解析し、脳表の静脈の数や走行、吻合パターンや、眼窩回並びに側頭葉極平面の形態並びに癒着の程度を調べ、これらの結果を用いて、形態学的な特徴に関してデータを収集し、そのデータの手術への応用を検証します。この研究によってこれらの静脈や、眼窩回並びに側頭葉極平面の形態学的特徴が掴めれば、実際の手術におけるシルビウス裂の安全な剥離を含めた手術操作方法の確立に大いに役立つ、手術の安全性の向上に寄与することが期待されます。</p> |
| 方法 | <p>本研究は2006年7月7日から2019年8月1日の間に経シルビウス裂接近法にて種子島医療センター、東広島医療センター並びに山田記念病院にて手術を行った全患者さんの手術ビデオの画像データ、およびカルテデータ(年齢、性別)を元に解剖学的特徴に関して解析を行います。患者さんのデータは、匿名化された後に山田記念病院に送られ、研究に使用されます。個人を特定可能な情報は解析に使いません。</p> |
| 共同研究機関 | <p>社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター 脳神経外科 国立病院機構 東広島医療センター 脳神経外科</p> |

医療法人 明清会 山田記念病院 脳神経外科
山田記念病院（研究担当者 今田裕尊）が解析します。

試料・情報の管理責任者

山田記念病院脳神経外科 川本仁志

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

お問い合わせ・苦情の窓口

〒723-0051 広島県三原市宮浦 6 丁目 2-1

T e l : 0848-67-4767

医療法人明清会山田記念病院 脳神経外科 医師 今田裕尊

研究機関：広島大学